

クラス	TU316	担当教員	東内 瑠里子
テーマ	乳幼児の生活体験（自然、食、生活習慣、関わり）と保育実践研究		
著書・論文 研究課題等	<p>【保育分野】東内「第7章 数や文字等への興味」共著『保育内容シリーズ 領域「環境」』2018年2月予定、東内「第3節 言語の指導にみる『知的な育ち』を形成する保育実践とその分析」、東内「第5節 体育的活動の指導にみる『知的な育ち』を形成する保育実践とその分析」共著『「知的な育ち」を形成する保育実践Ⅱ』新読書社、2016年、東内「第3節 認識活動の場面にみる「知的な育ち」を形成する実践とその分析」共著『「知的な育ち」を形成する保育実践—海卓子、畑谷光代、高瀬慶子に学ぶ』新読書社、2013年等々。</p> <p>【子育て支援分野】科研費研究ではファミリー・サポート・センター事業の研究をしています。</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：保育内容、乳幼児の生活体験、直接体験、保育実践			
<p>■学習目標■</p> <p>乳幼児の生活体験（自然、食、生活習慣、関わり）をキーワードに、現在の乳幼児の状況を把握した上で、どのような活動を、どのように経験させることで（あるいはどのような環境を準備することで）、どのような育ちの援助につながるのか、研究していきます。<u>毎年、集まったゼミ生で、学びたいことを議論し、計画を決めています。</u></p> <p>■2016年の3年生が自分たちで考えた明らかにしたい内容、方法および授業計画■</p> <p>明らかにしたい内容</p> <p>①自然の中で育つ子どもたちの能力 子どもの集中力/非認知能力（意欲、協調性、忍耐力、粘り強さ、計画性） 危機管理能力/主体性/責任感/想像力/協力/表現/感性/運動能力 選択する力/命の大切さ/生命/個性/ともだち</p> <p>②社会の現状 外での遊び場がない/四季を感じられない/スマホ利用の増加 地域とのつながりが少ない/少子化/遊び場の減少/都市部では子どもの声が騒音になっている</p> <p>③友だちがいるからこそ育つ能力 ①のほかに、信頼感/信頼感/思いやり</p> <p>方法 ①先行理論の整理/先行実践の整理、②仮説の検討・設定、③研究対象・研究方法の決定 ④調査および実践、⑤考察</p> <p>授業計画（3年次）</p> <p>①3～4年生交流会、②自分の興味関心をしぼる（履修カルテ「4文献レポート10冊」の完成） ③②を元に、卒業論文テーマを確定（仮） ④フィールド調査あるいはアクションリサーチについて検討、など</p> <p>■2017年の3年生は、学生の興味関心に合わせ保育者としての経験や認識を広げる活動を多く行いました。</p> <p>福祉の森の野草を調べる・食べる、幼児の運動遊びにむけての準備と実践（saltoのプールで、奥田保育園児との活動）、大阪・西成区の子どもの里合宿に向けての事前調査（文献調査、映画視聴）およびフィールドワーク（子どもの貧困について）、知多市赤ちゃんプロジェクトへの参加（乳児と親との触れ合いから学ぶ）、環境教育プログラム（美浜海岸の漂流物学習）の当日運営補助、芋の栽培・調理（奥田保育所と）、保育所見学、等々</p>			
担当教員からのメッセージ			
卒業研究では、フィールド調査あるいはアクションリサーチ（実践と研究）を必ずいれます。個人でも集団でも学外に出て行くことが多くあります。学生が主体となって行うゼミであるため、主体的に学ぶことのできる人を募集します。楽をしたい人、ゼミよりバイトやサークルを優先したい人は、選択すると後悔します。			